

そこで2～3週間薬浴を実施し、スレ等の症状が完治してから屋外200t(10×10×2.0m)水槽へ収容し、本養成を行なった。

水槽上は全面遮光、無通気で流量は1日に1回転、水槽底に水中ポンプを設置し、一定方向にゆるやかな流れをつくり残餌等が中央部分に集まるようにし、週に2～3回排水バルブを一時的に開放して水槽外へ残査等を排出した。

## 2) 結果

コガネシマアジはこれまでに取り扱った魚類の中では特にスレ易くそれに伴う治療も困難であった。表13に輸送結果を示す。

表13 コガネシマアジ輸送結果

購入月日	購入尾数	斃死数	生残数	歩留り
1982年	尾	尾	尾	%
2月2日～2月28日	24	16	8	33.3

表14 コガネシマアジ斃死魚測定結果

	全長	尾叉長	体高	体重
	cm	cm	cm	g
最大	76.0	67.5	24.0	5,300 (推定)
最小	56.0	53.0	19.0	2,560
平均	69.5	62.3	22.3	4,572 (推定)

水槽へ仮収容後1週間程度はスレ症状は認められないが、その後次第に各鳍や体側部に炎症がみられ3月31日まで16尾斃死、8尾は200t水槽へ収容して1983年3月現在12ヶ月経過しているが100%の生残率である。

## III 中間育成試験

### 1. 早期種苗中間育成試験

前年度同様海面生簀を使用してマダイの中間育成試験を実施した。

#### 材料と方法

供試魚は当支場陸上水槽で生産したものをを使用した。前年度の試験の結果よりまず全長11mm以上で沖出しを行なった。

#### 沖出し方法

計数はほぼ前年度と同様である。飼料は魚肉ミンチ、マダイ用初期飼料、それにマダイ用配合飼料、ウナギ用配合飼料にフィードオイル5%添加したもの、また極くわずかであるがミナミク

中央イ卵、アミを使用した。投餌は1日4回(7:00、10:00、14:00、18:00)各1時間かけて行なった。また沖出し前日より10日間は夜間懐中電灯を点灯し、天然プランクトンの収集に努めた。試区一、二重網が水中水質汚濁水、試区三、四、五は浄水及び塩水、水質面からの浄水生簀網は1.60 経モジ網(3×3×2.5 m以下サイズ同じ)より開始し、9.0 経モジ網、1.5 cm 目T.R網を魚の成長に応じて使用した。網は汚れ具合を見て交換したが長くとも1週間以上同一網を使用することはなかった。また前年度の飼育結果により網外生物による食害があることがわかったため、沖出し時より二重網とする試験区をもうけ、その内一つの区は毎日潜水し斃死魚のとりあげ計数を行ない従来までの方法と減耗の違いを観察した。水温、塩分濃度は毎日午前10時に測定した。

## 2) 結果と考察

飼育結果を表15に示す。飼育期間中の旬別平均水温を図6に示す。また塩分濃度は2.865~3.432%であった。

表15 飼育結果

区分	収 容			最終測定・取り上げ				
	月日	尾数	平均全長	月日	飼育日数	取り上げ尾数	平均全長	歩留り
	尾	mm		日	尾	mm	%	
1区	4/15	601	12.0	4/30	15	509	-	84.7
2区(二重)	5/4	6,570	13.02	5/24	20	2,150	35.3	32.7
3区	5/13	2,250	12.12	6/2	20	565	37.4	25.1
4区(二重)	5/18	4,000	12.36	6/2	15	1,800		45.2
5区(二重)	5/27	1,100	12.68	8/30	96	201	118.5	18.3

